

# 鶴岡が誇るものと技

MADE in TSURUOKA

鶴岡発の優れた技術やこだわりの逸品。その魅力や今後の展望を紹介します。

## 第11回 医療機器、訓練用生体モデルほか ～付加価値の追求～

株式会社高研は、不幸にも事故や病気で失われた手や足を補うためのシリコン素材の人工皮膚の研究など、補填形成を受託する会社として、1959年に設立されました。現在は、医療用プラスチック、訓練用生体モデル、コラーゲンを使った医療機器や化粧品原料など多様な製品を開発し、製造・販売しています。鶴岡工場は、新製品の開発部門と、製品の受注から生産、出荷までを担う製造部門が直結した拠点となっています。

「顧客の声を形にすることを念頭に置いて、製品を開発しています」と工場長の福嶋健治さん。同社は、患者一人ひとりの体の形状に合わせ、医療機器を受注生産するといった対応もしています。国内企業の多くが、国外製の規格品のみを扱う中、このような対応をしている企業は少ないとのこと。手術の日程等の要望に応え、極めて短い納期で作り上げることもあります。また、訓練用生体モデルについては、新しい治療のガイドラインや医療技術が開発されるたびに、それらを習得するための



工場長の福嶋さん

新たなモデルが必要となります。同社は、実際に製品を使う医師や看護師と意見交換しながら、一つひとつのモデルに、医療現場の「もっとこうしてほしい」という声を取り入れようと努めています。例えば、同社の内視鏡検査訓練用モデルは、「検査で発見したポリープの切除や

止血も練習できれば」という医師の要望に応えるため、再現された消化管に、切ると模擬血液が出て、止血も体験できるポリープがセットできるものとなっています。

顧客との対話を重視している同社の開発担当に、医学を専攻してきた人はいません。入社後に自分で勉強し、医師や看護師と症例や病状などの会話ができるだけの、専門的な知識を身に付けていきます。会社も、製品開発のヒントになればと、医療分野以外の展示会に参加する機会を設けるなど、多様な知識やアイデアの習得を支援しています。顧客からの相談や要望に対し、より実物に近い素材を提案するなど、プラスアルファの価値を付けて応えられるまでになっているとのこと。さらに、新製品を開発するときは、量産化できるか、採算が取れるかも考える必要があり、技術やコスト等、様々な課題を乗り越え、製品を世の中に出すにはとても根気がいるそうです。

これからも、顧客のニーズに応え、それ以上の価値を提供する、「高研ならではの製品」を生み出し続けたいと福嶋さん。新たに社員を採用するときは、学校の成績もみますが、人柄を大切にしていると言います。勉強でもスポーツでも何でもいいので、何か一つの目標を決めて、最後までしっかりやり遂げたことがあるかを重視しているとのこと。「『新製品開発なら高研に相談してみよう』と言われる会社を社員全員で目指したい」と、福嶋工場長は今後の展望を語ってくれました。

「鶴岡が誇るものと技」は今回が最終回です。ご愛読ありがとうございます。

品販売・相談業務契約等を強引に取り付けようとする電話があった

### ■不審な電話等にご注意を！

同制度を理由として、行政機関等が電話等で口座番号や資産、年金、保険、家族構成等の情報を聞いたり、お金やキャッシュカード、ATMの操作を要求したりすることは一切ありません。

◆マイナンバー・個人情報提供するときには 提供する相手と利用目的を必ず確認してください

◆不審な電話等には すぐに応じず（電話であれば一旦切り）、家族や相談窓口にご相談してください

### ■相談窓口

◆不審な電話等があったら ▼消費生活センター（本所市民課） ☎25・2982 ▼警察相談専用電話 ☎#9110 または鶴岡警察署 ☎28・0110へ（被害に遭った場合は、すぐに警察へ連絡してください）

◆同制度全般に関する問合せ ▼マイナンバー総合フリーダイヤル ☎0120・95・0178 ▼本所情報企画課 ☎内線637

◆マイナンバーが含まれる個人情報の取扱いに関する苦情は ▼特定個人情報保護委員会苦情あつせん相談窓口 ☎03・6441・3452

〈本所情報企画課〉